



2014-15 年度 R I のテーマ「ロータリーに輝きを」
R I 会長 ゲイリー・C. K. ホアン (Light Up Rotary)

八戸南ロータリークラブ会報



●ガバナー 工藤 武重 ●会長 榊 清蔵 ●幹事 伊藤 斉 ●コミュニケーション委員長 米内 安芸

ホームページ : <http://www.hi-net.ne.jp/~hsrclub/>

Email : hsrclub-2830@cd.hi-net.ne.jp

RI 第 2830 地区ホームページ : <http://www.rotary-aomori.org/2014/>

第 1919 回例会記録《クラブ組織運営委員会担当例会》

2015 年 2 月 19 日 (木) 点鐘 12:30

レポート No. 1352

四つのテスト

言行はこれに照らしてから

- 1) 真実か どうか
- 2) みんなに公平か
- 3) 好意と友情を深めるか
- 4) みんなのためになるか どうか

第 1919 回例会要旨

- ・ 会長要件
- ・ 幹事報告
- ・ 各委員会報告
《出席・親睦》
- ・ クラブ組織運営委員会



熊谷 S A A

《出席報告》桜田委員長

正会員数 44 名。本日の出席は免除会員 4 名を含む 23 名。出席率 62% です。前々会の例会は、よろず相談例会でした。



《ビジター》

山村 和芳 様 (八戸 RC)

《会長要件》赤穂副会長



県南地方もえんぶりが来ると何となく春の訪れを感じます。我々の業界でも住宅の基礎工事も出来るし、外壁工事も出来る、えんぶりを境にして春を感じます。皆様もご存知の「お庭えんぶり」は私も二回ほど見たことがあります。雪の降った時の「お庭えんぶり」は情緒があって素晴らしいものです。実はこの「お庭えんぶり」ですが今年で最後になるそうです。会場である更上閣が地震などでの痛みが激しく解体する事になったそうです。えんぶりも明日で終わりますので皆さんも是非「お庭えんぶり」をご覧ください。

《幹事報告》伊藤幹事

・新会員候補者の大橋央雅さんをご紹介します。会員増強委員会を経て理事会の承認を得ました。ご異議ある方は来週の例会前までに文書で幹事まで提出して下さい。



・来週は 40 周年打合せ例会になっていますが、来賓の方々、各ロータリークラブへは先週ご案内を致しました。奥様方への出席とお手伝いの案内を送らせていただきますのでご協力お願いします。

・来月の親睦活動委員会担当例会の講師は、八戸パークホテル中国料理長で現在は顧問の沼山國男さんです。数々の賞を受賞している方です。

《ニコニコボックス》平光委員長

赤穂副会長 : 本日は担当例会です、よろしくお願ひします。

伊藤幹事 : 赤穂委員長、今日はよろしくお願ひします。

平光会員 : 赤穂委員長、よろしくお願ひします。



《クラブ組織運営委員会担当例会》赤穂委員長



担当例会と言う事で何をやるのか色々考えたのですが今回は私の職業に関連する青森県の林業と我々大工職人のお話をさせていただきます。林業とは何かと申しますと、森林、林業、木材などが含まれるのですが、この森林の中に林産物と言うものがあります。林産物にはキノコや野菜の他に猪といった動物も含まれます。林業はいわゆる丸太で、原木を山で切り、玉切りして運搬する一次産業と、丸太を製材加工して製品にする二次産業とに分けられます。青森県の林業の生産額は、金額にすると約 80 億円で全国 17 番目くらいです。一番は長野県で二番が北海道、次が新潟です。長野の内訳は林業が 318 億円で林産物が 4,700 億円です。調べてみるとホクトと言う一部上場の会社がありここではキノコを作っています。その他に食品の包装資材などもやっていますが、主力はエノキ茸の生産で全国に販売しています。三番目の新潟もキノコです。こちらは雪国マイタケという主力品種があり、林産物の売上が 4,800 億円くらいあります。青森県は林業が 728 億円、林産物が 69 億円です。青森県と言えば木材ですが他所と比較してみると大分少なく、木材の搬出額は北海道がダントツの 1 位で、青森県は 7 位くらい、2, 3, 4 位は九州です。自分なりに使ってみての感想ですが九州は雨が多く暖かいので丸太の伸びは良いのですが目が粗く強度的にはどうかと

思います。目が粗いと強度が弱くなります。同じ杉でも青森県の場合寒いものですから成長には時間がかかりますが目が細かいものが出来ます。最近では成長の早い九州の木材が安く青森県にも入ってきています。我々が見ればどこの物かは分かりますが一般的には杉は杉ですので使い分けています。杉の丸太の単価ですが、今は円安で輸入ものがかなり安い、地元材は 80 年位経った直径 30 センチの杉が山で一本 5 万円、これから 4 メートルの玉切りが 7 本取れますが 80 年育てて 5 万円です。30 年くらい前には一本 15 万円から 20 万円した時期もありました。私の生まれたところでは丸太の太いのを 10 本も売れば冠婚葬祭が出来たものです。そういう時代もあったのですが、今ではどちらかと言うと小径木と言って細い丸太の方が高く太い丸太の方が安いのです。なぜかと言うと細い方が柱に加工しやすい、太いと加工した時の曲りなどを直すのに手間がかかる。もう一つは和室の需要が減って太い丸太は必要とされなくなったからで、細い丸太ばかり伐採されています。そのほかには薪の需要が高くなり、昔は杉の山を持っていれば旦那様でしたが、今はナラなどの薪にできる山の方が高くなっています。最近では薪ストーブを使う人が増えていて薪が足りない状況です。東京などにも出荷していますので八戸でも外国産の高価な機械を輸入して薪を作っている方もいます。さて、青森県にはどういう木があるかと言うと津軽や下北には日本の三大美林と言われるヒバがありますが、同じヒバ材でも津軽の物は柱や鴨居に使い下北の物は堅いので土台に使います。下北にも良い物はありますがどうしても津軽の物の方が柔らかく見た目も良いので柱などに使われます。白神山地、八甲田にはブナがありますがブナは最近ではピアノや家具などに使われています。昔は学校の床などは全部ブナでした。子供たちの椅子や机もブナで作りましたが今ではほとんどありません。そのほかには杉があります。造林したのですがこれは全国で四番目くらいです。防風林の黒松は震災により流されたり、切ったりしましたがその後も植林はしています。最近ではバイオマス発電を行う会社も立ち上がるようですが間伐材を使うと言っても植林しない事には丸太が不足すると思います。

話は変わりますが私は昭和 33 年に大工の学校へ入

りました。今の市役所の所に八尋（八戸尋常小学校）があり、そこに大工の学校がありました。入学した時には 280 名ほどでしたが三年間夜学へ通って卒業したのが約 90 名でした。今の訓練校の現状を言いますと昨年の 11 月には生徒は誰もいなく 12 月に一名入りましたが訓練校の存続も時間の問題です。昨年 8 名入学したものが 7 月には 3 名辞めています。今の子供たちは、ボーナスや有給を求めますが対応できていないのが現状です。若い人を育てていかなければいけないのは分かっていますがこれからは県の出先の訓練センター、桔梗野にある工科学院には建築科がありませんが青森や弘前にはあるのですから八戸にも作ってもらい、こちらで育ててもらいたいと思っています。今のままでは職人さんがいなくなってしまう。

私は古いものが好きで古い建物があれば走り回ります。鮫の石田屋さんが解体された時に明治 43 年に建てられたものだという事が分かりました。古い建物にはどこかに、誰がいつ建てたかと言うような事が書いてあります。機械で一気に壊したのでは分からなくなってしまいますが手作業で解体すると分かります。この石田屋さんが解体された時に床に転がっていた古いどんぶりを頂いてきたのですが、これを事務所に置いていたところある方が、今はやりの鑑定団に出せばお宝かもしれないよと言っておられました。八太郎で建て替えを請け負った時にこちらも良い材料を使っていたので手作業で壊し古材を頂いてきたのですが、ここにも建てたのは昭和 22 年と言う事の他に当時の物価も書かれていました。供出米が一俵 220 円、ヤミ米が一俵 5,000 円、大工の手間賃が 150 円、馬車馬が一頭 5 万円とあり、当時、馬がいかに貴重で高価だったかと言う事が判り驚きました。先週でしたが仏壇の補修の依頼がありお邪魔したのですが、遺影を拝見したところ、どこかで見たことがある方だなど思い帰ってからロータリーの名簿を見たら八戸クラブの方でした。この家の仏壇は 200 年ほど経った手作りのもので素晴らしいものでした。修理にあたっては優秀な職人を二人連れて三人がかりで行いましたが本当に素晴らしいものでした。とりとめのないお話になってしまいましたがこれで終わります。